



21世紀の森と広場



どんぐり

パークセンターだより 第100号 2009年12月・2010年1月号

ゆき わり そう 雪 割 草

みどりの相談員
あおしま なお すけ
青島 尚 祐

寒い時は春が待ち遠しい。そんな時、雪の間から植物がかいま見え、かわいらしい美しい花が咲いていたら、発見した喜びと感動に包まれるでしょう。こんなとき付けられる名前が雪割草（ユキワリソウ）である。園芸店で売っているユキワリソウはミスミソウ、スハマソウ、ケスハマソウ、オオミスミソウ、それにヨーロッパ産の外国種が交配されて多数の品種ができています。

植物図鑑に載っているユキワリソウはサクラソウの仲間の小さな高山植物で福島県から南に分布するが、一般の人の目に触れることはあまりないと思います。日本のミスミソウの仲間は本州から九州に分布しているが最近では少なくなっている。

古い時代から庭園に植えられたり鉢植えにして栽培されていた。花はほとんどは白だったが現在の園芸種はピンク、赤、紫、青、覆輪と多彩で花形も八重、千重、万重、丁字咲き、二段咲き、など、直径も2～8cmと大型化している。

花卉のように見えるのはガクで6～8枚が素の数である。葉は常緑で株もとから生えた柄の先に三角の葉が着くのでミスミソウといい、かどが丸くなっているものをスハマソウという。冬にある葉は古い葉で花が咲いた後に新葉が出てくる。栽培は落葉樹の下の半日陰の場所で腐葉土の多い排水の良い土に植え、乾燥しな



いように管理すれば良い。丈夫な植物ではあるが、松戸あたりの庭園では排水の良い斜面で湧き水があつて乾かないというような場所を見つけるのは難しいから鉢植えにして栽培するのがよいと思う。

コケを探してみよう！

自然解説員
かとう ゆういち
加藤 裕一

< 色々な “ こけ ” >

スギゴケ、ゼニゴケ、モウセンゴケ、サギゴケ、クラマゴケ、ウメノキゴケ... など、名前に “ こけ ” が入った植物は沢山あります。また、「鮎^{あゆ}が “ こけ ” を食べる」、「水槽^{すいそう}に “ こけ ” が生えて困る」という表現も耳にすることがあります。植物の図鑑^{ずかん}や本で、これら色々な “ こけ ” を調べ^{しら}てみると、次のように、様々な別のグループに属^{ぞく}していることがわかります。

- ・スギゴケ、ゼニゴケ : 「コケ植物」
 - ・モウセンゴケ、サギゴケ : 「種子植物」
 - ・クラマゴケ : 「シダ植物」
 - ・ウメノキゴケ : 「地衣類^{ちいるい}」
 - ・鮎^{あゆ}が食べるこけ、水槽^{すいそう}のこけ : 「藻類^{そうるい}」
- (地衣類は植物ではなく菌類^{きんるい}の仲間)

もともと、木の幹^{みき}や岩、地面などに生えた小さな緑色のものを総称^{そうしょう}して “ こけ ” と呼んでいたようです。そのため、様々なグループにまたがって、“ こけ ” という名前が見られるのでしょう。今回は、色々な “ こけ ” の中から、「コケ植物」に注目します (以下では 「コケ」 と書きます)。なお、「コケ植物」のことを 「コケ類」 または 「蘚苔類^{せんたいるい}」 と呼ぶことも多いです。

< コケの特^{とく}徴^{ちよう} >

大部分のコケは、茎^{くき}と葉の区別があります。しかし一部のものでは、茎と葉の区別がなく、べたーっとしています。また、普通の植物で見られるような根はなく、体全体で水分^{すいぶん}や養分^{きゆうしゆう}を吸収^{きゆうしゆう}します。

コケには、“ 湿気 ” や “ 日陰 ”、そして “ 自然が豊かな場所 ” というイメージがあるかもしれません。確かに、自然が豊富に残る山にハイキングに行くと、湿度が高い場所や林の中などでコケが一面^{ふだん}に生えていることがあります。では、普段の生活の中では見られないものかということ、そうでもありません。ちょっと注意し



て探してみると、家の周りや通勤路・通学路の道端でもコケを見つけることができます。中には、日差しが強く当たり乾燥しやすい岩の上や木の幹、ブロック塀などに生えているものもあります。コケは少し薄暗く湿った場所に多い、というのは確かですが、一部のものは、乾燥や直射日光にとっても強いという特徴があります。

ちなみに、世界的に見てみると、コケは熱帯から北極・南極まで広く分布し、日本では富士山山頂でも見る事ができるそうです。

<探してみよう>

公園内でも、ひっそりと暮らしているコケの様子をあちらこちらで観察することができます。冬、雨上がりの朝などに公園を散策してみると、木の根元近くや足元のタイルのすき間、岩の上などに生えた、きれいな緑色をしたコケに気付くことがあると思います。他の季節では草木が元気に生い茂っていて、コケはなかなか目に留まらないものなので、むしろ冬のほうが、コケを探しやすいかもしれません。

コケは、何ととっても小さいので、観察には虫メガネやルーペがあると便利で

す。また、正確な種類を調べるためには顕微鏡^{けんびきょう}で詳しく観察する必要があります。しかし、道具がなくても十分楽しむことができます。例えば、以下のような点に注目してみてもいいでしょうか。

- ・色の違い：コケは、種類によって様々な緑色をしています。鮮^{あざ}やかな黄緑、青っぽい緑、白っぽい緑、赤っぽい緑、黒っぽい緑、など、実に様々です。特に、雨上がりなど湿ったときは本当に美しい色を見せてくれます。
- ・手触り^{ざわ}：晴れが続くと、コケはからからに乾いてしまいます。触ってみると、枯れているんじゃないか？と思うほどです。しかし、雨や朝露^{あさつゆ}で水分を吸収すると、一気に復活し、柔らかくしなやかになります。特に、カーペット状に広がっているコケや、こんもりと集まっているコケの、湿ったときの感触はとても良いです。
- ・季節変化：小さな小さなコケですが、当然のことながら、少しずつ成長しています。先ほど、冬にも緑色をしていて探しやすい、と書きましたが、一年中緑色をしているのでしょうか？一年をどのように過ごしているのでしょうか？成長のリズムや季節に合わせて全体の様子に変化していくので、これを見守るのも面白いと思います。

参考文献

- ・中村俊彦・古木達郎・原田浩（2002）『野外観察ハンドブック 校庭のコケ』全国農村教育協会

自然観察舎・湿地の観察会のご案内

実施日	時間	
土・日曜日 及び祝日	10：00～10：30	【定員】先着25名（当日受付）
	11：00～11：30	【受付】自然観察舎 窓口
	13：30～14：00	【電話】047-340-4140
	14：30～15：00	

大雨等の都合により実施出来ない場合がございます。

あらず

争わない“エゴイスト”

自然解説員
よしおか あきら
吉岡 明良

～エゴノキにつく虫たち～

初夏に21世紀の森と広場を散歩していると、うっすらと緑がかった1.5センチくらいの白くて丸い実が鈴生りしている木、「エゴノキ」をたびたび目にします。エゴノキの名前は実の味が“えぐい”ことに由来していると言われていいますが、この実はサポニンという有毒成分を含んでいるのです。そのため、人間にはとても食べられたものではないのですが、その殺菌作用を利用して石鹸がわりに使っていたこともあったようです。今回はそんなエゴノキすら餌にしてしまう虫たちについて紹介していきます。

◆ エゴツルクビオトシブミ

5月、その白い可憐な花の盛りも過ぎたころ、エゴノキの葉が切り込みを入れられ、短い葉巻状に折りたたまれてぶら下がっているのを見かけることがあります。これはエゴツルクビオトシブミという体長が一センチにも満たない小さな甲虫の仕業です。オトシブミの仲間は木の葉を折りたたんで中に卵を産み付けるという習性をもっているのですが、卵からかえった幼虫にとって木の葉は食料かつ快適な環境を提供する揺りかごとして機能するのです。ちなみに「オトシブミ」という名前は折りたたまれた葉が落ちていく様子が「落とし文」、落ちていく巻物状の手紙に見えることに由来していると言われていいます。ただし、オトシブミの仲間にもこの「落とし文」をすぐに切り落とす種類とほとんど切り落とさずに残しておく種類がいて、エゴツルクビオトシブミは後者になります。そのため、私達はいち



葉巻状になっている部分がエゴツルクビオトシブミの「落とし文」

いち地面に這^はいつくばらなくてもこのオトシブミの「落とし文」を見つけることが出来るのです。肝^{かん}心の葉を折りたたんでいる場面に出くわすことは中々難^{むずか}しいですが、こまめにエゴノキを見ていれば、この首の長いひょうきんな虫が糸も使わずにみごとな「落とし文」を作る姿を見ることが出来るかもしれません。

◆ エゴヒゲナガゾウムシ



エゴヒゲナガゾウムシのオス(左)とメス(右)
オスは目が飛び出している

梅雨^{つゆ}があけるころにエゴノキの実を見てみると、真ん中にくぼみが出来ているのに気付くことがあります。その時はまわりをよく探してみてください。とてもユニークな顔立ちをしたエゴヒゲナガゾウムシに出会えるかもしれません。この虫も体長は5ミリほどしかないのですが、その扁平^{へんぺい}な顔に離^{はな}れた目は一度見ると忘れられません。オスは特に広がり具合と目玉の突出が強調されたデザインをしており、ウシツ

ラヒゲナガゾウムシとう別名が付けられたのもなるほど、とうなずけます。この目の飛び出し具合が大きいほど強いオスであると言われているようです。件^{くだん}のエゴノキの実のくぼみはメスが産卵する際にあけた穴で、エゴノキの実(種子^{しゅし})一つにつき一匹の幼虫が育ちます。

◆ エゴノネコフシアブラムシ

エゴヒゲナガゾウムシたちがつかまっているエゴノキの実は確かに丸い実なのですが、となりにバナナ状の実のようなものになっているのを目にすることがあります。あまりにも形がかけ離れているのでとなりの木の実かと思ってよく見ても、確かに同じエゴノキから生えています。これはエゴノネコフシアブラムシというアブラムシの一種がエゴノキの組織の一部を変化させて、自分のすみか「虫こぶ」にしてしまったもので



中心にあるのがエゴノネコフシアブラムシ

す。この虫こぶは猫^{ねこ}の手にも似ているのでエゴノネコアシ(フシ)と呼ばれています。ちなみにこのエゴノネコアシがすみかとして使われるのは秋から春の間で、エゴノネコアシアブラムシはアシボソやチヂミザサといったイネ科植物で夏をすごします。あれだけ凝ったすみかを作るだけではあきたらず、夏休み用の別荘地^{ぜいたく}まで持っているとは贅沢な虫ですね。

このように、有毒植物であるエゴノキも虫たちはうまく利用して生活しているようです。特に、上で挙げた3種はそれぞれ違った方法でエゴノキを利用しているので、(少なくとも面と向かっては)争うこともなく、仲良くエゴノキを分け合っています。このような関係は長い進化の歴史から生まれてきたものなのでしょうが、私たちにとっても見習うべき所がたくさんあるかもしれません。

参考文献 森津孫四郎 (1983) 日本原色アブラムシ図鑑 全国農村教育協会



パークセンター12月・1月の催し物

講座名	日時	定員	講師	費用	受付
園芸教室 「葉ボタンの寄せ植え」	平成21年12月5日(土) 13:30~15:00	24名	みどりの相談員 丸尾三恵子氏	2,000円	11/15~
こども自然体験 「落ち葉の観察」	平成21年12月6日(日) 10:00~12:00	25名	自然解説員 加藤裕一氏	無料	11/15~
みどりの講習会 「本格的なクリスマス のリース作り」	平成21年12月10日(木) 10:00~12:00	30名	ガーデンコーディネーター 杉田佳子氏	2,000円	11/15~
みどりの講習会 「ミニ門松作り」	平成21年12月12日(土) 13:30~15:30	20名	県立流山高校教諭 松崎美幸氏	1,000円	11/15~
パードウォッチング (雨天観察舎)	平成21年12月20日(日) 10:00~11:30	25名	自然解説員 直井 宏氏	無料	12/1~
パードウォッチング (雨天観察舎)	平成22年1月16日(土) 10:00~11:30	25名	自然解説員 今村裕之氏	無料	12/15~
園芸教室 「冬の花と庭木の手入れ」	平成22年1月17日(日) 13:30~15:00	45名	みどりの相談員 小林喜代次氏	無料	12/15~
園芸教室 「落葉果樹の剪定」	平成22年1月23日(土) 13:30~15:00	45名	みどりの相談員 野口宣二氏	無料	12/15~
パードウォッチング (雨天観察舎)	平成22年1月24日(日) 10:00~11:30	25名	自然解説員 直井 宏氏	無料	12/15~

電話、または直接、パークセンターへお申込み下さい。

予定に変更が生じる場合がございますので、詳細はパークセンターまでお問い合わせ下さい。



年末年始・休館(園)案内



施設名	電話番号	お休み
公園	047-346-0121	12月30日(水)～1月1日(金)
パークセンター	047-345-8900	12月28日(月)～1月4日(月)
自然観察舎	047-340-4140	12月28日(月)～1月4日(月)
アウトドアセンター (バーベキュー場)	047-385-1815 047-384-2234	12月26日(土)～1月7日(木)
カフェテラス(プレリュード)	047-347-5877	12月28日(月)～1月4日(月)
里の茶屋	047-347-6850	12月29日(火)～1月6日(水)
売店(わかば)	-	12月28日(月)～1月1日(金)
松戸市立博物館	047-384-8181	12月28日(月)～1月4日(月)
森のホール21	047-384-5050	12月28日(月)～1月4日(月)

売店「わかば」は、1・2月は土・日曜日と祝日のみの営業となります。

みどりの相談室

相談員の先生が園芸に関するさまざまな質問に無料でお答えします。

【相談日】 水・土・日曜日と祝日

【時間】 午前10時～12時・午後1時～3時30分

【電話】 047-345-8738
ハナミツバチ

年末年始は相談をお休みさせていただきます。また、都合によりお休みさせて頂く場合がございます

発行日：2009年12月1日
 発行：21世紀の森と広場パークセンター
 開館：9:00～16:00
 3月1日からは
 9:00～16:30
 月曜休館(祝日開館/翌日休館)
 〒270-2252 松戸市千駄堀269
 TEL 047-345-8900
<http://www.city.matsudo.chiba.jp/>



21世紀の森と広場シンボルキャラクター
ドンちゃん・グリちゃん